

# 野菜の主な病気と対処法

植物の病源には、菌類（主に糸状菌というカビの仲間）、細菌（バクテリア）、ウイルス、ファイトプラズマなどがあります。なかでも菌類による病気がいちばん多く、細菌やウイルスなどによる病気はわずかです。

菌類は、食品などにカビが生えるときと同じ条件で繁殖します。つまり、梅雨時のような多湿条件が大好きです。そのような環境を作らないように管理をすることが大切です。実際には、整枝などを適切にして風通しをよくする、排水をよくして多湿にならないようにするなどの管理が大切です。また、植物体はやわらかいと寄生しやすくなるので、チッ素過多にならないように施肥量を適正にします。

カビは気孔からや表皮を溶かして植物体内に侵入します。細菌は傷口から侵入するので、細菌病は大風が吹いたあとなどに発生しやすくなります。

ウイルスは、アブラムシなど

によつて伝播（でんぱ）することが多いのですが、資材や汁液によつても伝染します。感染すると薬剤散布しても治らないので、予防を心がけます。

## キュウリの病気

連作すると土壤伝染病が発生しやすくなります。接ぎ木苗を用いることで防除ができますが、できれば連作は避けたいものです。モザイク病などのウイルスによる病気は、感染すると農薬を散布しても回復しません。そこで、主な原因であるアブラムシなどの飛来を防ぐことが大切

です。また、病株は発見次第抜き捨てるようにします。病株の汁液がハサミについて感染することもあるので、道具の使用には注意が必要です。べと病菌は雨滴による土の跳ね返りで発病するので、敷きわらを敷いて防ぎます。また、多くの病気は、葉が込み合うと発病しやすくなるので、整枝などを適切にし、通風や透光をよくします。

### ●キュウリの病気

